

めぐみイエス・キリスト教会

2021年2月14日(日)第二主日礼拝
週報「通算第544号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌467「世の終わりのラッパ」	p. 752
【交読文】	No.4 詩篇第18篇	p. 881
【賛美Ⅱ】	新聖歌364「わが主イエスよ」	p. 584
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル賛美20「キリスト讃歌」	
【聖書朗読】	使徒の働き8章4節～8節	
【礼拝説教】	《伝道者ピリポ》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

◎本日の聖書箇所【使徒の働き8章4節～8節】

8:4 散らされた人たちは、み言葉福音を伝えながら巡り歩いた。

8:5 ピリポはサマリアの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。

8:6 群衆はピリポの話聞き、彼が行っていたしるしを見て、彼が語ることに、そろって関心を抱くようになった。

8:7 汚れた霊につかれた多くの人たちから、その霊が大声で叫びながら出て行き、中風の人や足の不自由な人が数多く癒やされたからである。

8:8 その町には、大きな喜びがあった。

●ポイント1. ピリポとは？

※使徒の働き6章1節～6節「ディアスポラの7人の執事」(新約p.243上段)

6:1 そのころ、弟子の数が増えるにつれて、ギリシア語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情が出た。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給においてなおざりにされていたからである。

6:2 そこで、十二人は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神の言葉を後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません。

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた、評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、

6:4 私たちは祈りと、み言葉の奉仕に専念します。」

6:5 この提案を一同はみな喜んで受け入れた。そして彼らは、信仰と聖霊に満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、ティモン、パルメナ、そしてアンティオキアの改宗者ニコラオを選び、

6:6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。使徒たちは祈って、彼らの上に手を置いた。

●ポイント2. サマリアの町とは？

※列王記第二16章24節「北王国イスラエルの王オムリ」(旧約p.630下段)

16:24 彼は銀二タラントでシェメルからサマリアの山を買い、その山に町を建て、彼が建てたこの町の名を、その山の持ち主であったシェメルの名にちなんでサマリアと呼んだ。

■**サマリヤ** 北王国イスラエルの首都、及びその周辺地域の名称。オムリはティルツァで6年間統治した後に、シェケムの北西11キロの丘に、新しい首都を築いた。サマリヤは、預言者たちに偶像礼拝の中心地と捉えられていた。アッシリアに滅ぼされた後、ローマ時代になってポンペイウスらがサマリヤ再建を始めたが、本格的な再建を行なったのはヘロデであった。ヘロデはここに一大神殿を建て、周囲3キロの城壁で町を固めた。

●ポイント3. サマリアにおける最初のリバイバルとは？

※ヨハネの福音書4章3節～18節・25節～30節「井戸の女」(新約p.181下)

◎先週のメッセージの概要【迫害者サウロ】

《サウロはステパノを殺すことに賛成していました。彼は議員たちの上着の番をしたのです。後にサウロは、自分の経歴について、証しています。「私は、キリキアのタルソで生まれたユダヤ人ですが、エルサレムで育てられ、ガマリエルのもとで先祖の律法について厳しく教育を受け、律法による義については非難されるところがない者でした。」と。

伝承では、紀元10年、5歳の時に両親と共に、タルソからエルサレムに移り住みました。そしてユダヤ最高のラビ、ガマリエルの弟子になります。

主イエスの十字架、ペンテコステ、そしてペテロとヨハネによってエルサレムに著しい奇跡が行なわれた時にも、ガマリエルは議会に議員として健在でした。また、弟子サウロもエルサレムに留まっていたのです。

サウロはステパノの弁明を聞いていました。だからこそ、その全文が使徒の働きに掲載されているのです。ステパノは聖霊に満たされ力強く、「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます」と語りました。この言葉が、議員たちを怒りの頂点に誘発したのです。

この直後に迫害者サウロが誕生します。「その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外は皆、ユダヤとサマリアの諸地方に散らされ、サウロは家から家に押し入って教会を荒らし、男も女も引きずり出して、牢に入れた。」とルカは書き記していますが、これを実行するには、議会の承諾とユダヤ兵の部隊が必要でした。なぜ、当時青年であったサウロに、これほどまでの権限が与えられたのでしょうか。それは、ガマリエルの弟子でありサウロ自身も議員の一人であったからです。

さて、学者の多くは、サウロは主イエスに直接会ったことはない、と考えますが、実は共観福音書には、ある一人の役人の青年が登場します。「先生。永遠の命を得る為には、どんな良い事をすればよいのでしょうか。」と、主イエスに尋ねるのです。彼は大金持ちでした。聖書はあえて名前を伏せていますが、彼こそがサウロであると、私は確信しているのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は2021年2月21日(日)教会において行ないます。聖書勉強会と祈り会は、2月17日(水)各家庭において行ないます。